

こうどうかんき
弘道館記

(水戸藩藩校の教育理念書)

しいわく ひとよく みちをひろむ あらず みちはひとにひろまるに
子曰、人能弘道、非道弘人

孔子先生は、こう説かれた。

人々が規範を弘めることができるのであって、

規範が人々に弘まるのではない。



天下三弘道館と云われる出石藩、佐賀藩、水戸藩の藩校名の由来は論語から
来ている。弘道館記の拓本には「景山公所撰」とあり、徳川齊昭の著作に
よることが判る。日付は嘉永三年（1850年）五月とあるから、水戸弘道館
開校から九年後である。「藤田彪 謹書」とあり、藤田東湖の揮筆である。
佐賀藩ではこの年に反射炉を構築し、二年後には「精錬方」を設置して兵器
開発に努めている。拙宅の掛け軸は、当時、精錬方の役職にあった筆者母方
の原家が、水戸弘道館の理念に感じて、蔵していたものであろう。

令和五年十二月十三日 大中臣正比呂 記